

好きなもの

『人形から
とどいた手紙
ベルリンのカフカ』

リッサ・トゥーリー/文
ベッカ・グリーン/絵
野坂悦子/訳
化学同人

カフカが公園を歩いていると、女の子が泣いていました。お人形がいなくなったと聞いたカフカは、自分はお人形の手紙を預かる郵便屋だと言い、次の日から女の子に手紙を届けることにしました。

『ニワシドリの
ひみつをもとめて
ものづくりする鳥の
ふしぎをさぐる旅』

鈴木まもる/著
理論社

作者は、子どもころ東屋のような巣を作る鳥の本を見つけた。その鳥は、庭師ににていることから「ニワシドリ」と言われている。何のためにそんな巣を作るのか。そのひみつを求めて旅に出た。

『ひと箱本屋と
ひみつの友だち』

赤羽じゅんこ/作
はらぐちあつこ/絵
さ・え・ら書房

ひと箱本屋カフェ「SHIORI」を訪れた朱莉は、そこで売られていた手作りの本に目がとまった。作者が同年代だと知り、会いたくなった朱莉は、手紙を書いてお店に預けることにした。

助ける

『ぼくらの
まるひかがいじゅぎょう
⑧ 課外授業』

佐和みずえ/作
仁保知行/絵
小峰書店

学童クラブでユーレイ騒ぎが起きた。良祐たちは正体を突き止めようと夜の学童クラブへ行く。すると、ユーレイは家も仕事もないお兄さんだった。良祐たちは彼の社会復帰を助けることにした。

『人間に
なりたかった犬』

今西乃子/作
福田岩緒/絵
新日本出版社

犬童神社で飼われている犬のシロは、7回も生まれ変わったのに人間になれない。そこで前世は犬だった官司が、1日12時間だけ人間になれるお礼をくれる。シロの小学生に化けた生活が始まる。

『フォグ
霧の色をしたオオカミ』

マルタ・パ・ラツヴェージ/作
杉本あり/訳
Naffy/イラスト
岩崎書店

19世紀のロンドン。孤児のクレイが、街にやってきたサーカスにもぐりこむと、美しいオオカミが、調教師からひどいあつかいをされているのを目にする。クレイは、オオカミを森に返す計画をたてる。



知ると分かる。
すると変わる。

SDGs MODEL ADACHI

発行



足立区立中央図書館

TEL 03-5813-3740



新たな発見や楽しさに出会おう！

ふだんは読まないジャンルの本にチャレンジすると、
きっと新たな発見や楽しさに出会えるよ！



不思議

『直紀とふしぎな庭』

山下みゆき/作
もなか/絵
静山社



住むところを探していたばくのおじさんは、白い子猫に導かれるようにして、古い貸家を見つけた。庭付き一軒家が月5千円と知り、さっそく引っ越した。でも、そこには何やら強い霊気がただよっていたのだ。



→ あだち電子図書館で読める本



→ 読みやすい本

©Yo & Motoko

あだち電子図書館
くわしくはコチラ



考える



『オリヒメ 人と人をつなぐ 分身ロボット』

吉藤リイ/著
加藤悦子/文
子どもの未来社



オリヒメは体が不自由な人たちの分身ロボットです。学校に行けず悔しい思いをしたオリヒさんの経験が開発につながりました。では、オリヒメはどんな場所で活躍しているのでしょうか。



『ニコラ・テスラ ものがたり “電気の魔術師”と よばれた男』

アザ・デ・ウェスター/文
フリヤ・カルダ/絵
大山泉/訳
評論社

幼い頃に電気に興味を持ち、次々と便利な道具を発明したニコラ。後に「電気の魔術師」とよばれ、レーダーやエックス線などを考え出したニコラ・テスラの人生をたどってみましょう。



『ぼくたちのいばしょ かめじましようたこくせきたんてい 亀島小多国籍探偵クラブ』

時田浩平/作
酒井以/絵
文研出版



春馬と秀則が活動している新聞委員会に、ネパールからやってきた転校生サラダが新たに加わるようになった。お互いの言語や文化を知っていくうちに、3人は仲良くなっていく。



『アンナの戦争 キンダートランスポートの 少女の物語』

ヘレン・ピーターズ/作
尾崎愛子/訳
偕成社

1930年代のドイツでは、ユダヤ人への迫害が始まっていた。ユダヤ人一家のアンナは、12歳で家族とはなれイギリスへ避難する。ようやく新しい生活が始まったのもつかの間、ある事件が起きる。

未来へ伝える



『楽しむ伝統文化 着物 1』

織田きもの専門学校/監修
保育社

日本の伝統文化として知られる着物。着るのが難しいイメージがあって、身近に感じられない人もいたのではないのでしょうか。でも実は、ファッションの一つとして楽しめるものなのです。



『死者のひみつ 世界のミイラ』

マット・リフス/文
大英博物館/監修
ゴールド・ライツ/絵
山根玲子/訳
和田浩一郎/日本語版監修
BL出版

古代エジプトのツタンカーメンや、イランのソルトマン。世界各地で発見されているミイラを調べてみると、当時の生活や文化がわかります。どんなひみつがくさされているのか、探ってみましょう。

成長する



『今日も ピアノ・ピアノ』

有本綾/作
今日マチ子/絵
Gakken



ゲームを取り上げられ、沈んだ気持ちで塾に向かった海斗。駅からピアノの音が聞こえてきた。おじいさんが弾く音はなんだかほっとする。立ち上がるおじいさんに海斗はあわてて話しかけてしまった。



『エール！ 主人公なぼくら』

室賀理江/作
ふるり/絵
文研出版



5年生になってすぐ、運動会の係を決めることになった。目立たない大地は、希望者の少ない「テープ係」になろうと思ったけど、人気者の陽介がなぜか大地を応援団に推薦した。



『波あとが 白く輝いている』

蒼沼洋人/著
講談社



小6の七海は、1歳の時に母を震災で亡くし、母の記憶がほとんどない。ある時、母の小学校時代の同級生から交換日記を渡される。そこには、生き生きとした母の姿があった。



『ブラックバード の歌』

ガヤ・バーロー/著
千葉茂樹/訳
鈴木まもる/画
あすなろ書房

フルートが生きがだったのに、事故で手をけがしてしまったアニー。リハビリする気になれずにいたとき、歌をうたうブラックバードと、その鳥の巣作りを見守る少年ノアに出会う。

変える



『捨てられる魚たち 「未利用魚」から生まれた 奇跡の灰干し弁当ものがたり』

柳木春幸/著
講談社



そのまま捨てられてしまう魚のことを「未利用魚」といいます。料理人の柳木さんは、日本の漁獲量の約3割にものばる未利用魚問題を、なんとかできないかと取り組むことにしました。



『なんてくさいんだ！ ロンドンを救った ジョゼフの物語』

コリン・ファース/文
ナジー・カーンター/絵
金原瑞人/訳
あかつき教育図書

1800年代のロンドン・テムズ川は排泄物にあふれていた。何度か伝染病がはやり、なくなる人もいた。ロンドンを健康的な場所にしたい土木技師のジョゼフは、ある計画を提出することにした。



読みやすい本には
ハムハムがいるよ
© Yo & Mataka